

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中等 1	学校名	県立勝田中等教育学校						課程	全日制			学校長名		下山田 芳子			
教頭名	上金 紀子				潮田 巧巳								事務（室）長名		川崎 敦司			
教職員数	教諭	35	養護教諭	1	常勤講師	0	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手			1	事務職員	0	技術職員等	1	計	46
生徒数	学科		1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合計		合 計 クラス数	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
	普通科		60	60	60	59	60	58	59	56	58	53			297	287	15	

2 目指す学校像

グローバルな視野と起業家精神を兼ね備え、自ら人生を切り拓くとともに、「地域」と「世界」をつないで地域創生に貢献するグローバルリーダーを育成する学校

3 三つの方針（スクールポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	①主体的な学びを通して、知識・技能を活用することができる生徒を育成する。 ②探究的な姿勢で、新たな創造をすることができる生徒を育てる。 ③豊かな人間性にあふれ、多様な人々と協働することができる生徒を育成する。 ④個々の夢の実現に向けて、挑戦し続けることができる生徒を育成する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	①カリキュラム・マネジメントに努め、学校教育活動全体で教科等横断的な学習を推進するとともに、個に応じた学習や課題解決型学習を促進する。 ②「主体的・対話的で深い学び」を推進した教育活動を通して、グローバル社会に対応できる「課題を発見する力」「発見した課題を分析し、探究する力」「解決に向け、試行錯誤しながら

別紙様式 1 (中等)

	ら実行できる力」等を育成する。 ③探究活動や国際教育、科学教育等に重点を置いた「開かれた教育課程」を実現させることで、生徒同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手となる資質・能力の基礎を培う。 ④生徒一人一人の個に応じた学習指導とキャリア教育の推進を通して、諸依頼の夢を叶える上で難関大学や海外大学等への進学を実現させる。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて的確に判断することができる生徒 ②他者と切磋琢磨しつつ互いの立場や考えを尊重しながら共に協力し合える生徒 ③何事にも最後まであきらめずに挑戦し続けることができる生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	・タブレット端末等の ICT を活用した授業について、職員研修を実施して授業力向上に努めている。 ・家庭学習の習慣化が図れるように、手帳を活用した学習計画を呼び掛けている。また、ICT 機器等を活用した反転学習など、授業と家庭学習とをリンクさせ、家庭学習習慣が身に付くよう努めている。 ・各教科の授業で学習支援アプリ等を効果的に活用し、課題解決に向けた対話的・協働的な学び合いを積極的に取り入れている。	・対話的・協働的な学び合いを実現するために、ICT 機器を活用した指導法の更なる工夫改善に努める。 ・中学校・高等学校学習指導要領に基づいた、中高一貫教育校としての 6 年間の体系的な教育課程の編成と指導計画の作成を進める。 ・観点別評価を踏まえた指導と評価方法を確立する。
進路指導	・総合的な学習の時間（未来探究）を中心に、グローバルリーダーの育成を図っている。特に GCP の授業では、生徒が積極的に取り組み、自己理解や他者理解、多様性などへの理解を深めている。 ・キャリア教育関連行事を通して、生徒が自分の将来の在り方や生き方について考える機会を多く設けている。 ・授業や各種行事等の企画・運営において、外部との連携	・キャリアプランニング能力の育成を図るため、学習と探究活動の 6 年間の系統的指導を構想する。 ・生徒の高い志を育て、一人一人の様々な進路希望の実現のために、自ら調べ、探求する態度を育成する体験の場を用意し、生徒の取り組みを支援することで、社会の一員としての

別紙様式 1 (中等)

	を進めており、開かれた学校づくりに努めている。	役割を果たし、自立して生きていくために必要な能力や態度を育成していく。
生徒支援	・生徒指導提要の改訂により、細部にまで目を配る指導体制がより整備され、予防的・開発的な指導が行われている。特別指導を受ける生徒や、服装等で繰り返し注意を受ける生徒もほとんどいない。 ・登下校時の交通事故は減少傾向にあるが、自転車の乗り方等の交通マナーや、事故時の対応に課題がある。	・特別な配慮を要する生徒と関わった経験が少ない教員もいるため、特別支援学校巡回相談事業を活用するなど、特別支援学校との連携を図りながら、具体的な対応の仕方について研修を進めていく。
特別活動	・学校行事は高校生をお手本とすることも多かったが、高校生の行事をそのまま中等で実施する難しさも感じた。生徒会活動や委員会活動の在り方についても、単独で実施することも必要であると考える。 ・部活動に関しても高校生と一緒にできる環境は子どもたちのためになる部分があるが、高校生と中等生の活動場所が一緒なので、充実した練習ができていない現状もある。人数も増え、場所の確保が最大の懸案事項である。	・行事や部活動において、勝田高校生との異年齢での集団活動として、全員清掃を計画している。昨年度は3年次生までしか在籍していなかったため、社会性を育むための効果的な特別活動の在り方について探る必要があった。 ・中等が5学年になったので、実態に応じて中等生と高校生と一緒にやるものと別々に活動するものを分けていくことも必要である。中等生と高校生がお互い充実した学校生活が送れるような活動をしていきたい。
幅広い働き方の実現	・令和6年度時間外在校等時間の「月平均時間」44時間01分、「月平均45時間超過者割合」36.7%、「月平均80時間超過者割合」8.5%と、昨年度よりも増加し、他校と比較して異常に高い状況にある。中等への移行期特有の業務過多が影響し、各種会議に長時間を要しているため、校務に支障が出ているのが現状である。また、超過勤務時間への意識はあるが、校務が減っていないのが現状である。	・長時間労働の未然防止のため（マインドセットも含む）、仕事の効率化を図る必要がある。 ・職員会議に時間を長時間要しているため、審議事項の精選や運営方法の改善を図る。

5 中期的目標

- 1 探究活動や国際教育、科学教育等に重点を置いた教育を展開し、豊かな人間性と「起業家精神」を兼ね備えた地域のリーダーや世界に飛び立つ人財を育成する。
- 2 主体的な学びを通して、生徒の課題発見、解決能力や言語的表現能力などの多様な能力の育成を図り、教養と知性溢れる生徒の育成を目指す。
- 3 教師一人一人が、指導内容に関する専門性の向上と指導方法の工夫改善に努め、より質の高い授業を展開することによって、生徒一人一人に確かな学力を保証する。
- 4 学校行事や部活動、奉仕活動を通じて異年齢交流を積極的に推進し、社会に貢献するリーダーとしての資質を育成する。
- 5 広報活動を充実させ、保護者や地域への情報発信に努め、地域から信頼される開かれた学校づくりを目指す。
- 6 各分掌における仕事内容の整備を図り、生活と仕事の両立・調和のためのライフ・ワーク・バランスを推進する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 豊かな心の育成	①「時を守り、場を清め、礼を正す」を徹底し、規範意識の高揚を図る。 ②道徳教育等を推進し、学校生活における様々な規則を遵守し、自他の生命を尊重する意識の高揚を図る。 ③国際教育を推進し、豊かな国際感覚を身に付けるとともに、異文化理解の促進を図り、多様な人々と協働しようとする態度を養う。 ④学校行事や生徒会活動、探究活動等を通じて異年齢交流を推進し、社会性の基礎を培う。
2 確かな学力の涵養	⑤中高一貫教育校としての6年間の体系的な教育課程の編成と指導計画の作成を行う。 ⑥主体的な学びを通して、知識・技能を習得するとともに、これらを活用することができる思考力・判断力・表現力を育てる。

別紙様式 1 (中等)

	⑦ICT 機器を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に努める。 ⑧ICT 機器等を活用した学習課題の提示など、家庭学習習慣の確立を図る指導の充実に努める。
3 進路指導の充実	⑨生徒の高い志を育て、一人一人が自らの可能性に挑戦し、実現するための進路指導体制の構築に努める。 ⑩学習と探究活動の系統的指導を通して、キャリアプランニング能力の育成を図る。 ⑪課題を発見し解決する力や自己管理能力の伸長を促し、生徒一人一人の目標実現に向けたキャリア教育を推進する。
4 特別活動の活性化	⑫学級活動や生徒会活動等をより充実させ、自主・自立の精神の高揚を図る。 ⑬日常生活上の諸問題を生徒が自ら気づき、解決する自発的・自治的な活動の充実に努める。 ⑭キャリア・パスポート等を活用し、日々の教育活動の中で培われていく振り返る力と関連付けることへの意識付けを図る。 ⑮学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、フィードバックしながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を推進する。
5 連携の強化	⑯生徒の声、保護者の声、地域を真剣に受け止め、連携・協力して問題を解決する体制づくりに努める。 ⑰「地域」や「企業」、「大学」等との連携を強化し、多様な人々との関わりを通して学びを広め深める「開かれた学び」を推進する。 ⑱年次会を充実させることにより、教務主任、年次主任との連携を図ることで、職員間の報告・連絡・相談・確認・記録の徹底を図る。 ⑲部活動の地域移行を推進する。 ⑳グローバル教育、プログラミング、起業家精神教育における外部団体との連携を推進する。 ㉑WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業 (グローバ

別紙様式 1 （中等）

	ル人材育成強化事業）の推進に向けて、外部団体等との連携を図る。 ②高等学校D X加速化推進事業を活用し、デジタル人材育成に向けて各大学や企業との連携を推進する。
6 広報活動の充実	③毎月の学校便りや年次便りの発行など、保護者や地域住民への情報発信を積極的に行い、本校の教育活動に対する理解と協力の獲得に努める。 ④イベント参加、学校公開、小学校訪問や塾訪問を充実させるとともに、HP の更新と内容の充実に努め、本校の特色等を積極的に発信し、広く周知する。
7 働き方改革の実践	⑤長時間労働の改善に向けて、ICT 化を推進し、仕事の効率化を図り、定時退勤を目指す。また、積極的に休暇を取得し、心身の健康維持に努める。 ⑥職員間の連携の主軸として教務主任を置き、連携しながら校務を進める。 ⑦改編期検討委員会において、業務の負担軽減や効率化に向けた話合いの機会を設ける。
8 授業改善	⑧職員で相互授業参観を行い、Katsuta Style の授業（ICT の効果的な利用、探究の過程を意識した授業の構成）の在り方を研修していく。 ⑨定期的に生徒による授業評価を行い、生徒の学習に対する有用感や満足度を意識して、生徒の授業に対する意識の実態把握とし、授業改善に努める。それにより、授業の満足度の平均値が 3.5 点以上になるようにする。